



2022

INTERNSHIP REPORT

— インターンシップ実施報告書 —



岩手大学理工学部

FACULTY OF SCIENCE AND ENGINEERING, IWATE UNIVERSITY

岩手大学インターンシップ 実施概要

インターンシップとは、「学生が、その仕事に就く能力が自らに備わっているかどうかを見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験を行う行動」（文部科学省、厚生労働省、経済産業省定義）で、岩手大学では下記概要により実施しています。

1.目的

岩手大学理工学部「社会体験学習」（以下「インターンシップ」という）事業は、学生に職場体験させることにより、主体的で創造的な人材の育成を図ることおよび事業所、地域との連携を図りながら、広く社会に貢献することを目的としています。

2.対象学年

この科目の主な対象学年は3年次で、集中学習として計3回の事前・事後指導全てに参加する必要があります。なお、単位認定も実施しており取得できる単位数は1、または2単位です。

3.実習期間及び実習内容

実習期間は原則として夏期休業期間中の5日間以上（40時間）です。5日間（40時間）の実習で1単位、10日間以上（80時間）の実習で2単位が取得できます。

実習内容は基本的に各事業所等が作成したカリキュラムによります。

2022

INTERNSHIP REPORT

— インターンシップ実施報告書 —

CONTENTS

化学・生命理工学科	化学コース	2
化学・生命理工学科	生命コース	3
システム創成工学科	電気電子通信コース	4
システム創成工学科	知能・メディア情報コース	5
システム創成工学科	機械科学コース	6
システム創成工学科	社会基盤・環境コース	7
2022 年度インターンシップ受け入れ事業所実績一覧		8
事業所からの Q&A		8
事業所実績等内訳		9
理工学部インターンシップ実施要領		10
理工学部インターンシップのながれ		11
学生アンケート		12
インターンシップ実施委員名簿		13

● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

電気の送電システムの
根底にある技術を垣間見た樋口 悠ひぐち ゆう

【期 間】

令和4年8月22日(月)～
8月26日(金)〈5日間〉

【実習先】

通研電気工業株式会社

インターンシップ実習報告

私は学部4年生で就職することを希望しており、

実際の企業の業務を体験したいと思い、インターンシップに参加しました。学務から提示された企業から選びましたが、私が専攻している化学コースを対象とする企業が少なかったため、そこで化学コースを受け入れていただける宮城県仙台市にある通研電気工業株式会社で、8月22日から26日までの5日間、組込基盤開発グループで実習をさせていただきました。

インターンシップ初日は測定器や基盤、回路図、製品の評価項目の説明から入り、その後、測定器を用いて電気通信の波形やスペクトルを計測しました。2日目以降は測定器を用いて基盤のスペクトルやノイズ、エラー測定などを行い、それぞれ記録やグラフを作成しました。基盤を扱う際、その上に乗る小さな部品一つ一つが大きな処理能力を持っていることを実感しました。また、計測の合間を縫って、あ

るスタッフの方が社内工場を案内してくださり、そこで製品の実物や製造の過程を見ることができました。

今回私が体験した組込基盤は、パソコンなどの普段の生活で扱う機械だけでなく、建物内や電柱などに設置されているものにも使われており、その精度が私たちの生活に大きな影響を及ぼす非常に重要な要素です。

全くの畑違いの分野で不安でしたが、それゆえに見るものが新鮮に映り、とても興味深いものでした。また、私たちが普段使う電子機器や生活に欠かせない電気の送電システムの根底にある技術を垣間見ることができて、とても良い体験になりました。



● INTERNSHIP REPORT



別の視点から医薬品を捉えてみたいと思い、今回のインターンシップの申し込みに至りました。実習内容は生産技術部、品質管理、製造第二、製造第三、製造第四での就業体験でした。

生産技術部では粒度分布計を用いたサンプル特定とエネルギー分散型X線分光法 (SEM-EDX) による元素分析をさせていただきました。製品に通常の物質よりも粒子径を小さくした特注品を使用しているなど、参考値と測定値が一致しないものもありました。担当者の方からは、元素分析では理由付けと考察が重要だというお話をいただきました。これらのことから知識はもとより、経験と応用力が必要だと感じました。

品質管理では複数ある内部組織のほとんどを紹介していただきました。分刻みのタイムスケジュールで対応していただき、業務概要を伝えたいという思いがとても強く伝わってきました。質疑応答の中で、御社への就職希望はあるが自分の専攻分野が化学ではなく生命であるため遅れをとらないか不安だと相談させていただきました。それに対して、実際に就職が決まってから学ぶことがほとんどであり、異分野を専攻していた社員も多いから心配しなくても大丈夫だという回答をいただきました。加えて生命分野は創薬とつながっていることもあり、強みにすることもできるというお話をいただけて大変心強かったです。

製造第二では抗生剤の原薬や中間体の製造を行っている113棟、123棟、133棟の現場見学をさせていただきました。特に113棟では「抗生剤の最終兵器」という異名を持つ物質の製造を行っている、実際に見学することが出来て感動しました。また、危険物を取り扱っている現場であるため必要な資格が多く専門性の高さを実感しました。

製造第三では抗生剤の無菌製剤包装を行っている301棟の見学をさせていただきました。ここは微生物や微粒子に厳しいエリアで、特に人が最大の汚染源であるとされていて、エリアごとに服装や入れる人数、入れる人が定められていることが印象的でした。

製造第四では経口抗生剤に特化した製造包装棟である223棟の見学をさせていただきました。製造管理システムによって工程の全自動化が進んでいることが特徴でした。そういったこともあり顆粒剤の包装が手作業で行われていることは衝撃でした。包装作業の体験をさせていただきましたが、正確さと素早さが求められました。このように人の手が入る作業にはスキル検定の取得が必要であり、定期的な更新を求められるとのことでした。

5日間の実習を通して自分の知識不足と御社に対する興味を痛感しました。今後の学生生活への良い刺激となり、将来自分がどうしたいのかを定めるきっかけとなりました。

最後になりますが、多忙であつたにも関わらずインターンシップ参加者を受け入れ、ご指導いただきましたシオノギファーマ株式会社金ヶ崎工場の皆様にご場をお借りして感謝を申し上げます。

Pick Up

医薬品の知識不足から 自分の将来を定めるきっかけ

池田 美咲
いけだ みさき

【期 間】

令和4年8月29日(月)～
9月2日(金) (5日間)

【実習先】

シオノギファーマ株式会社
金ヶ崎工場

● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

通信機器の設計・製造過程と
人間関係や就職活動について知る

加藤 晃己

【期 間】

令和4年9月5日(月)～
9月9日(金)〈5日間〉

【実習先】

大井電気株式会社
水沢製作所

インターンシップ実習報告

私は今回9月5日から9月9日までの5日間、大井電気株式会社水沢製作所にてインターンシップ実習をさせていただきました。

大井電気株式会社は通信機器を中心に、通信インフラを支えるシステムや装置を開発、製造、販売されています。私は、現代から将来の社会において不可欠である情報通信について興味が有り、去年の研究内容で遠隔からPCを操作するといった内容のことに触れる機会があったので今回のインターンシップ事業先を選びました。

実習内容としては、OPTネットワーク開発部、IoT開発部、社会システム技術部、ソフトウェア2部、機構設計部の開発部門を全体的に体験させていただきました。OPTネットワーク開発部では、仮製品の評価試験を行いました。仮製品ではODN-164という通信機器を使用し、製品についての概要、通信がどのように行われているかなど、また、顧

客に製品が届くまでに行われている品質管理についてなど、理解を深めることができました。IoT開発部では、Raspberry Piを用いた回路制御について学びました。また、実際に製品を開発している工場を見学し、設置されてある装置の説明などしていただきました。社会システム技術部では、ODN-533という製品の実装パッケージ等を入れ替え、装置実装図の製作を行いました。製品に入っている盤がどういった役割を果たしているのか、出来上がった仮図と、実際の製品図と比較したりなど業務内容の簡単などところを知ることができました。ソフトウェア2部では、C#のプログラミングを行いました。プログラミングの基礎的なところから、通信機器など製品にはどういったプログラムや言語が使用されているか学ぶことができ、今後の研究に生かしていけるような内容を学ぶことができました。機構設計部では3DCADを用いた製品設計を行いました。3DCADに触れることは初めてだったので、取り組み始めはうまくいきませんでしたが、最後には製作する部品のほとんどを製作す

ることができ、良かったです。最終日や、お昼休憩のときには岩手大学出身、自身にとっては先輩に当たる方とお話をする機会をもらい、会社の雰囲気などの会社内のことや、就職活動など、現在の私が気になっていることなど様々なことについて質問することができました。ありがとうございました。

今回のインターンシップを通して、通信機器がどういった過程で設計・製造されていくか、会社内の人間関係、就職活動にあたって気を付けることなど、いろんなものを知ることができました。最後になりますが、お忙しい中ご指導いただきました大井電気株式会社水沢製作所の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



【写真出典】

<https://www.ooi.co.jp/company/office>

● INTERNSHIP REPORT



インターンシップ実習報告

私は今回九月一日から九月七日までの五日間株式会社アイディーエスにてインターンシップ実習をさせていただきました。今回お伺いした株式会社アイディー

エスは借入貸し付けなどの財務に関わるソフトウェアの開発やシステムの導入、技術者派遣など幅広いことをしています。私がこのインターンシップ先を選んだ理由は二つあり、一つは情報系の企業に興味を持っていて、今回実際に仕事を体験することによって情報系企業の特徴や自分がこの仕事に

Pick Up

情報系の企業の

特徴を知る貴重な体験

鎌田 春奈

【期 間】

令和4年9月1日(月)～
9月7日(金) (5日間)

【実習先】

株式会社
アイディーエス

向いているかを知り今後の就職活動に生かしたいと考えたからです。二つ目は、私は大学で情報系を学んで実際プログラミングやグループで一つのものを作ったことがあるが、実際システムをどのように作っているか興味があったからです。

実習内容は、企業の説明、ソリューション事業部という主に借入、貸付サービスを作っている事業部の新人研修の一部の体験や、事業部の会議、全体の会議の見学や交流会をさせていただきました。

企業の説明では、ホームページだけでは知ることのできない情報を知る事が出来ました。この企業ではAIや画像認識など新しい技術を取り入れ身に着ける活動をしており、情報系は日々進化しており、積極的に取り入れていかなければならないという情報系企業の特徴を知る事が出来ました。さらに、お客様との会話や会議などが多く、コミュニケーション能力が必要だと知る事が出来ました。私はもともとこの仕事はパソコンにかじりついて話すこともあまりないという印象でしたがそれを知り、今はどの分野でも話す能力は必要なのだと痛感しました。

新人研修は、実際に会社で扱う種類のデータを使っ

て体験しました。やはり財務系のシステムを作っている会社だったので、使っているデータも借入金や貸付金などお金にかかわるものを扱っていてこれはプログラミングの技術のほかにも、簿記などの技術も必要だなと感じました。実際社員の方との交流会の際、簿記をもっていると役に立つといわれました。

各部署の会議では、社員の方が実際にどのような仕事をしているか知る事ができました。一人で納期も内容も違う仕事をいくつも掛け持ちで行っていて、スケジュール管理をしっかりと行っていないといけないと感じました。仕事の進み具合も会議では話していても遅れたか、どう解決するかを報告してここでこそコミュニケーション能力が必要だなと改めて感じました。

全体の会議では、動いているお金や、注文数を見て、とても大きいスケールだなと感じました。この企業は財務にかかわるシステムを作っているし、お金のスケールも大きいので、漠然と持っていた、社会人になると学生と違って責任がかかるという認識を現実を感じる事が出来ました。

今回のインターンシップを通して株式会社アイディーエスのことや情報系の企業がどのようなものなのかを知る事が出来ました。普段あまり詳しく知る事が出来ない貴重な体験をすることが出来て非常に有意義な時間でした。

最後になりますがお忙しい中実習先として受け入れて下さった株式会社アイディーエスの皆様から感謝申し上げます。ありがとうございました。

● INTERNSHIP REPORT

Pick Up

めっきの品質はめっきの前の
準備によって左右される

上野 真衣

【期 間】
令和4年8月22日(月)～
9月2日(金)〈10日間〉
【実習先】
大森クローム工業
株式会社

インターンシップ実習報告

私は、大森クローム工業株式会社で行われた2週間のインターンシップに参加しました。実習先を選んだ理由は、高校で化学、大学で機械について学んできた中で、めっきは化学と機械の両方の知識が必要分野だと感じ、体験してみたいと思ったからです。10日間の日程のうち、最初の2日間はオンライン、残りの8日間は現場実習という内容でした。

まずオンラインでは、会社紹介、クロムめっきについての基礎講座、ビジネススマナー研修、先輩社員との対談などを行いました。

この中で最も印象的だったのはビジネススマナー研修です。ビジネススマナーは時間や相手、状況などによって変化するため正解はないが、その中で相手をいかに気遣うことができるかが重要だと教えていただきました。また、言葉遣いや身なり以上に、元氣よく挨拶をすることが重要だと分かりました。元氣な挨拶や、メールなどのビジネス文書の書き方は、普段の大学生活の中でも、先輩や先生方とのやり取りの中で身に付けることができると思うので、社会人になるための準備として日頃から気を付けたいと思いました。

次に8日間の現場実習では、小型めっき、研究開発生産管理の3つの部署で体験しました。

小型めっきの部署で行った業務は、めっき前のマスキングや磨き、治具への取り付け、めっき後の製品の梱包などでした。マスキングでは、製品のめっきしない部分にテープを貼ったり、ブリキ板を巻き付けたりしました。最初はとても時間がかかってしまいましたが、少しずつ、短時間できれいにできるようになり達成感を感じながら取り組むことができました。また、マスキングの精度によってめっきの精度も変わってきたのでよかったです。治具への取り付けでは、社員の皆様が、製品の形状に合わせた治具をその場で工夫して作っているのを見て、現場で身に付けてこられた技術のすごさを感じました。製品を梱包しては、めっきをするだけでなく、安全にお客様に製品を届けるところまでが技術者の仕事であると痛感しました。

研究開発部では、めっき液の分析、めっき製品の表面の観察などを行いました。めっき液の成分は、不純物が多すぎるとうまくめっきできなくなり、めっきに必要な成分が多すぎると環境に負荷がかかることを学びました。

この点について、自分でめっき液を分析したことで理解が深まったのでよかったです。また、クロムめっきした製品の表面の硬さ試験を行い、炭素鋼の硬さの値と比べて4倍近く大きかったので、クロムめっきの特長である硬さがどれだけ優れているか分かりました。

生産管理部では、1日にたくさんの方の電話や書類の対応をされている社員の方の姿を見て、自分の仕事だけでなく会社全体のことを把握していなければいけない仕事だと思い、周りをよく見て把握した上で行動することがどれだけ大変であり、かつ重要であるかが分かりました。

今回、めっきに関わる業務を体験しながら、社員の方から教えていただいた、「めっきの品質はめっきの前の準備によって左右される」ということを、身を持って感じる事ができました。そして、準備によって質が左右されるのはめっき以外の作業でも同様だと感じたので、今後自分が携わる仕事においても、準備を怠らないようにしたいと思います。2週間という長い期間受け入れてくださった大森クローム工業の皆様への感謝の気持ちを忘れず、今後も精進していきたいです。



● INTERNSHIP REPORT



葛巻町役場での実習では、葛巻町全体のまちづくりの進め方や第三セクター事業の1つである畜産業から地域資源を保全したまちの方針について学ぶことができました。実習を通して、著しい人口減少と少子高齢化が進む葛巻町では、人口流入の政策はもろろん、今いる住民同士また住民と役場のつながりの強化を意識したまちづくり政策が進められていると感じました。役場側で住民と葛巻町の現状と将来について考える機会を作ったり、役場側が第三セクター事業に積極的にかかわることで企業と役

場間の結束を強めたり、多様な強い関係性を形成し、いざという時の共助が行われるよう努めた細かな業務が行われていました。これら業務を、実習を通して体感したことで、国や都道府県とは異なり、市町村は直接的に住民の方々と関わるが多く、求められることも様々で技術職、行政職関係なしになんでもやらなければならない職であると考えました。

岩手県沿岸広域振興局土木部での実習は、釜石市・大槌町で行われている県の建設事業の視察に行ったり、建設事業を進めるにあたり必要となる用地業務、県の建設物の維持管理業務について教えていただいたりしました。実習に参加するまで、土木事業は土木技師のみで行われているものだと考えていましたが、総合土木業務が円滑に進むよう庶務的な業務などを行う管理事務や、建設事業を進めるために必要となる用地問題を扱う用地事務など、事務業務を行う方々の支えあっている事業なのだと学びました。また、技師であっても対象とする建設物はそれぞれであり、配属が数年周期で変わることから、幅広くさまざまな土木知識が必要となる職業であると考えました。

県と町役場という2つの職場は、同じ公務員でも似

ている点・異なる点がいくつかありました。特にその中でも学びになったのは、住民との距離感です。市町村役場であると住民の方々と直接関わり対応を行うのに対し、都道府県になると住民と直接かかわることが市町村役場に比べて少なく、対市町村とすることが多いことです。住民との近さに違いがあることは実習をしてみないとわからないことだったので、かなり驚きでした。

実習参加前までは、ざっくりと公務員になりたいという考えだったため、市町村職員でも都道府県職員でもどちらでも良いと思い、それぞれに違いはないと考えていました。しかし、実習を通してそれぞれの業務を体験することで、組織として似ている点・異なる点があることを実感し、参加前にくらべてより具体的に進路を考えられるようになりました。この実習で得られたことを進路選択の参考にし、よりよい進路へ進めるよう励んでいきたいと思っています。

最後に、お忙しい中実習の受け入れをしてくださった葛巻町役場の皆さん、岩手県沿岸広域振興局土木部の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

インターンシップ実習報告

私は、葛巻町役場と岩手県沿岸広域振興局土木部でインターンシップを行いました。2つの地方自治体でのインターンシップを通して、それぞれの組織でどのような役割のもとまちづくり政策や建設土木事業が行われているのかを学び、自分自身の進路選択の参考とすることができました。

岩手県沿岸広域振興局土木部での実習は、釜石市・大槌町で行われている県の建設事業の視察に行ったり、建設事業を進めるにあたり必要となる用地業務、県の建設物の維持管理業務について教えていただいたりしました。実習に参加するまで、土木事業は土木技師のみで行われているものだと考えていましたが、総合土木業務が円滑に進むよう庶務的な業務などを行う管理事務や、建設事業を進めるために必要となる用地問題を扱う用地事務など、事務業務を行う方々の支えあっている事業なのだと学びました。また、技師であっても対象とする建設物はそれぞれであり、配属が数年周期で変わることから、幅広くさまざまな土木知識が必要となる職業であると考えました。

県と町役場という2つの職場は、同じ公務員でも似

Pick Up

市町村職員と都道府県職員の

似ている点と異なる点

本間 圭組織

【期間】

令和4年8月22日～8月26日〈5日間〉

令和4年9月5日～9月9日〈5日間〉

【実習先】

葛巻町役場

岩手県沿岸広域振興局土木部



2022 年度インターンシップ 受け入れ事業所実績一覧（五十音順）

事業所名	所在地	期間	実習生数	コース名
株式会社アイディーエス	奥州市	5 日間	1	知能・メディア情報
株式会社アルファシステムズ	神奈川県	2 日間	1	知能・メディア情報
いであ株式会社 東北支店	宮城県	5 日間	2	社会基盤・環境
岩手県沿岸広域振興局	釜石市	5 日間	1	社会基盤・環境
岩手県企業局	盛岡市	5 日間	1	機械科学
岩手県県土整備部	盛岡市	5 日間	1	社会基盤・環境
株式会社エヌ・エス・ティ	東京都 (オンライン)	12 日間	1	機械科学
大井電気株式会社 水沢製作所	奥州市	5 日間	1	電気電子通信
大森クローム工業株式会社 東北工場	北上市	10 日間	1	機械科学
オリエンタル白石株式会社 東北支店	宮城県	5 日間	1	社会基盤・環境
葛巻町役場	葛巻町	5 日間	1	社会基盤・環境
シオノギファーマ株式会社 金ヶ崎工場	金ヶ崎町	5 日間	1	生命
株式会社ジオシス	東京都	10 日間	1	社会基盤・環境
通研電気工業株式会社	宮城県	5 日間	1	化学
株式会社デンソーソリューション 中部支社	愛知県 (オンライン)	3 日間	1	知能・メディア情報
東京ソフトウェア株式会社	東京都	3 日間	1	知能・メディア情報
トランスコスモス株式会社 BPOS 統括 UES 総括 BIS 本部	東京都 (オンライン)	5 日間	1	社会基盤・環境
長野日本ソフトウェア株式会社	長野県	2 日間	1	知能・メディア情報
西松建設株式会社 北日本支社 新幹線盤石出張所	北海道	5 日間	1	機械科学
日本企画株式会社	千葉県 (オンライン)	3 日間	1	知能・メディア情報
株式会社福山コンサルタント 北東北事務所	盛岡市	5 日間	2	社会基盤・環境
三星工業株本社	新潟県	5 日間	1	機械科学
宮城県土木部大河原土木事務所	宮城県	5 日間	1	社会基盤・環境
矢崎化工株式会社	静岡県	10 日間	1	機械科学
事業所数 計 24 事業所 実習生数 延べ 26 名				

事業所からの Q&A

Q 各学科の授業科目の学習内容を確認したいのですが？

A 大学のホームページに各授業科目のシラバスがありますので、そちらでご確認ください。
大学シラバスサイト：
<https://ia2.iwate-u.ac.jp/websyllabus/kensaku/slbsCtI/SyllabusKensaku.php?new=1>
[岩手大学 In Assistant2.0 (アイアシスタント 2.0)]

Q 学生との雇用関係はありませんが、受け入れた学生自身の傷害事故・学生の過失による事業所・第三者への加害事故による補償はどのようにしていますか？

A 学生自身の傷害事故については、基本的に自己責任との観点から、事業所の過失の有無とは無関係に一定の保険金が支払われる傷害保険等の加入を指導し、大学で加入済みの確認をしています。また、必要に応じて事業所側で賠償責任に備え保険に加入することはかまいません。なお、大学で加入指導している学研災・賠償責任保険の補償と保険料は下記の表のとおりです。

Q 実習生と協議し実習期間を事前に調整しましたが、開始日、実習期間などは変更してもよろしいでしょうか。

A 大学・実習生・受入事業所間で取り交わした「岩手大学理工学部インターンシッププログラム覚書」には、実務を経験する期間の具体的な日程は明記されていませんので、開始日、実習期間の延長なども三者で調整いただければ結構です。

【学研災・賠償責任保険の補償と保険料の例】（2022 年度現在）

※詳細は大学 HP から確認して下さい。

名 称／学生教育研究災害傷害保険（1,200 万円コース）

死亡保証金	1,200 万円（正課中・学校行事中の場合）
後遺障害保険金	程度により 72 ～ 1,800 万円（正課中・学校行事中の場合）
医療保険金	治療日数（1 日目～）により、3,000 円～ 300,000 円 （正課中・学校行事中の場合は 1 日以上が対象） 入院加算 1 日につき 4,000 円（180 日限度）
保険料	年額 820 円 2 年間 1,440 円 ※付帯特約を含む。

名 称／学研災付帯賠償責任保険

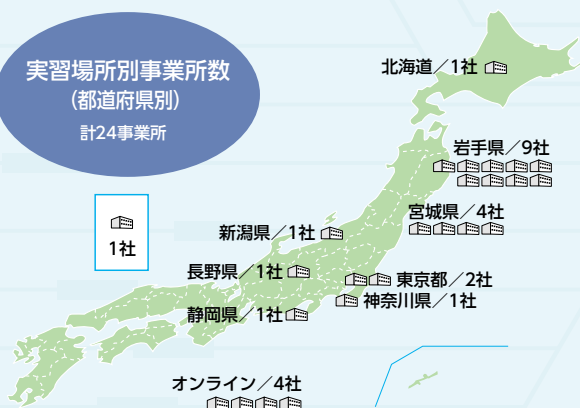
（※こちらの保険は学生教育研究災害傷害保険の加入が必須条件です）

賠償責任保険金	対人賠償と対物賠償合わせて 1 事故につき 1 億円限度
対象・保険料	A コース 正課、学校行事など（インターンシップを含む） （年額 340 円）

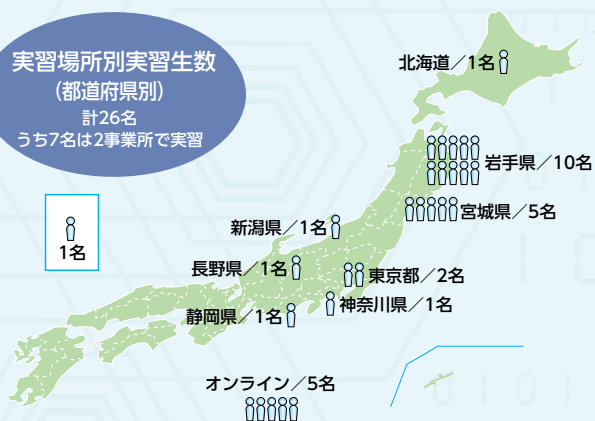


事業所実績等内訳

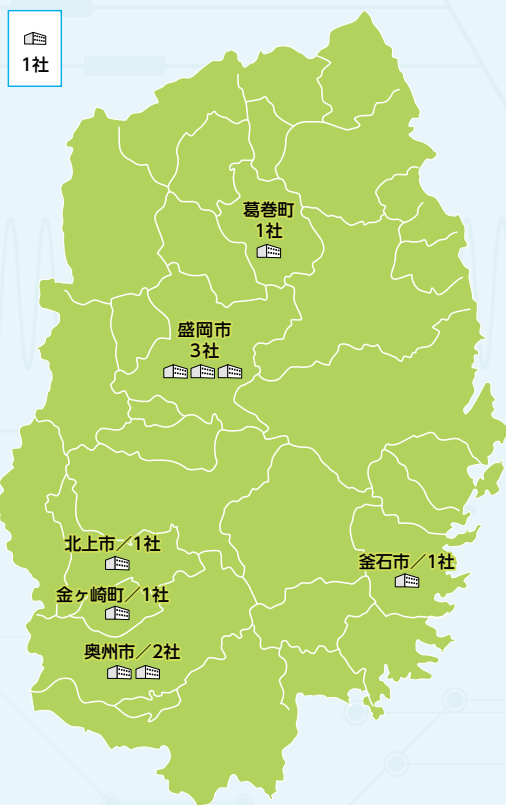
実習場所別事業所数
(都道府県別)
計24事業所



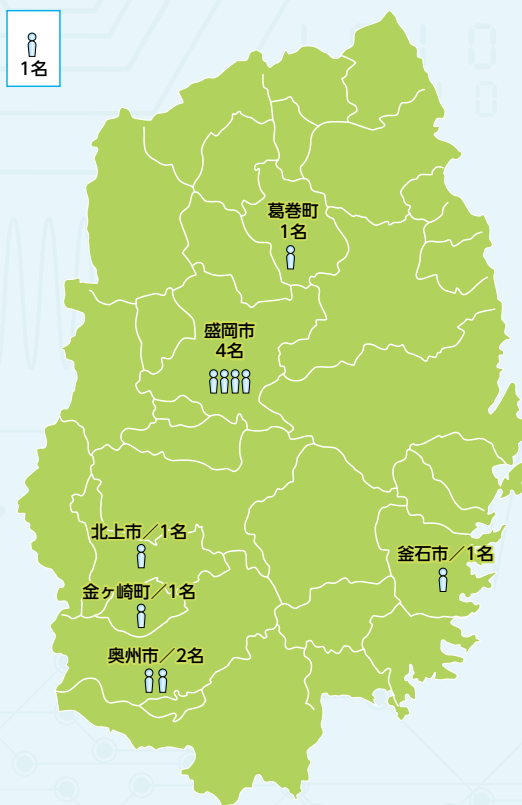
実習場所別実習生数
(都道府県別)
計26名
うち7名は2事業所で実習



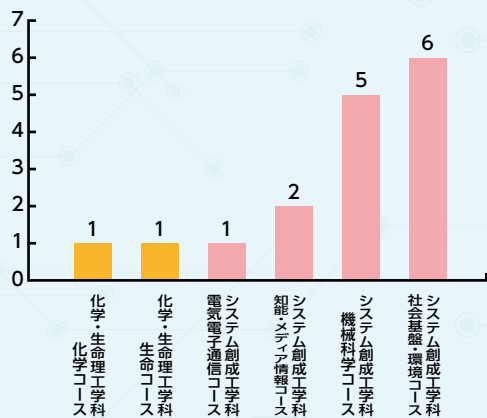
実習場所別事業所数 (県内市町村別) 計9事業所



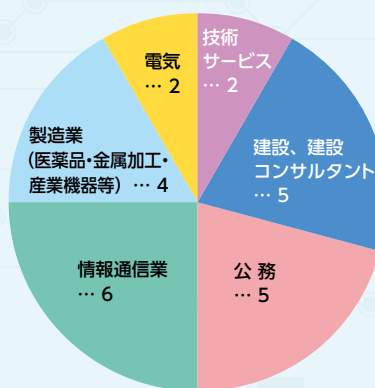
実習場所別実習生数 (県内市町村別) 計10名



コース別実習生数 (実数) 計16名



業種別事業所数 計24事業所





事前にインターンシップをきちんと理解してもらい、
事後もしっかり指導を行っています

岩手大学理工学部インターンシップ実施要領

インターンシップ実施委員会

1 目的

岩手大学理工学部「社会体験学習」（以下「インターンシップ」という）事業は、学生に就業体験をさせることにより、主体的で創造的な人材の育成を図ること及び事業所、地域との連携を図りながら、広く社会貢献の基盤を作ることとする。

2 対象学年等

この事業は3年次対象の集中学習とし、単位数は1～2単位とする。
なお、単位認定は5日間(40時間)を1単位、10日間(80時間)を2単位とし、2単位を限度とする。
また、大学院生の受講を認める。

3 実施期間

インターンシップは、主として夏季休業期間に実施する。

4 受入事業所の確保

インターンシップにおける受入事業所の確保のために受け入れの依頼を行い、受入条件を確認の上、事業参加への了承を得る。

5 受入事業所の公表

受入事業所の内容・条件(受入機関の名称、業務、住所、受入期間、学生のインターンシップ内容、交通・宿泊施設の有無等)に公表する。
なお、実習中の報酬については原則無報酬として扱う。

6 他機関によるインターンシップ事業への参加

本事業以外に実施されている他機関の主催するインターンシップ事業に参加することができる。
ただし、単位認定に関する申請等は本事業の実施要領に基づき対処する。

7 自己開拓事業所の決定

学生が自己開拓した受入事業所を希望した場合は、委員会が実習体制、カリキュラムの内容を調査し、適否を判断する。

8 履修申告

インターンシップ事業に参加を希望し、単位認定を受けるために、希望学生は授業科目「社会体験学習」を申し込まなければならない。

9 受入事業所の調整及び決定

参加希望学生からの申込に基づき、派遣学生を決定する。
なお、受入期間及び受入事業所における実施カリキュラムの内容は随時調整することができる。

10 覚書の取り交わし

インターンシップ派遣学生、受入事業所及び大学との三者で覚書を取り交わし、実施形態・実施方法を確認する。また、実習生紹介書(履歴書)を受入事業所に提供する。
なお、他機関によるインターンシップ事業での参加学生の場合は理工学部インターンシップ事業の覚書等を省略することができる。

11 就業体験中における事故・損害、機密保持

就業体験中に万が一発生する事故等に備えて、インターンシップ参加学生の傷害・損害等の保険加入を指導し、派遣確定後は大学で加入の確認を行い、リスクの解消に対応する。

なお、保険の種類として学生自身が傷害を負う場合及び学生が受入事業所や第三者に損害を与える場合に対応できる保険とする。(委員会では「学生教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」を推奨する。)

また、受入事業所との覚書によって、守秘義務を負うことを確認する。

12 事前指導

インターンシップ希望学生は事前指導を受講しなければならない。事前指導ではインターンシップの目的・効果、安全教育、職業意識と心構え、ビジネスマナー、業界及び事業所の研究、履修指導、保険加入等の指導及び学習に関して数回に分けて行い、インターンシップの効果上げる。

なお、事前指導の内容は委員会で決める。

13 インターンシップ実施前の打ち合わせ

インターンシップ参加学生は実施前に受入事業所との打ち合わせを行い、インターンシップの実施に支障が無いように調整する。

14 インターンシップの実施期間の体制

インターンシップが学外の受入事業所で行われること、特に運営が大学等の休業期間中に実施されることから、非常時の連絡体制を整備する。

15 事業所訪問

インターンシップ実施委員会委員は実習を円滑に進行させるため、また、大学と事業所間の連携活動として、インターンシップ期間中に事業所を訪問し、事業のフォローアップを図る。

16 就業体験の評価・報告

受入事業所では実習に対する学生の態度、テーマへのアプローチについての評価・報告を行い、大学では学生成績評価の総合判定資料とする。

また、インターンシップ実施中の学生は実習日報を作成することにより設定テーマの進捗状況を確認し、目標達成度を判断すること。最後に自己評価を含めた実習レポートを作成し、大学に提出する。

17 事後指導

インターンシップ終了後、実習で得たものを学生が互いに認識し確認しあうために、学生間のディスカッション、自己評価及び今後の学習に必要な課題提出等の指導を行う。

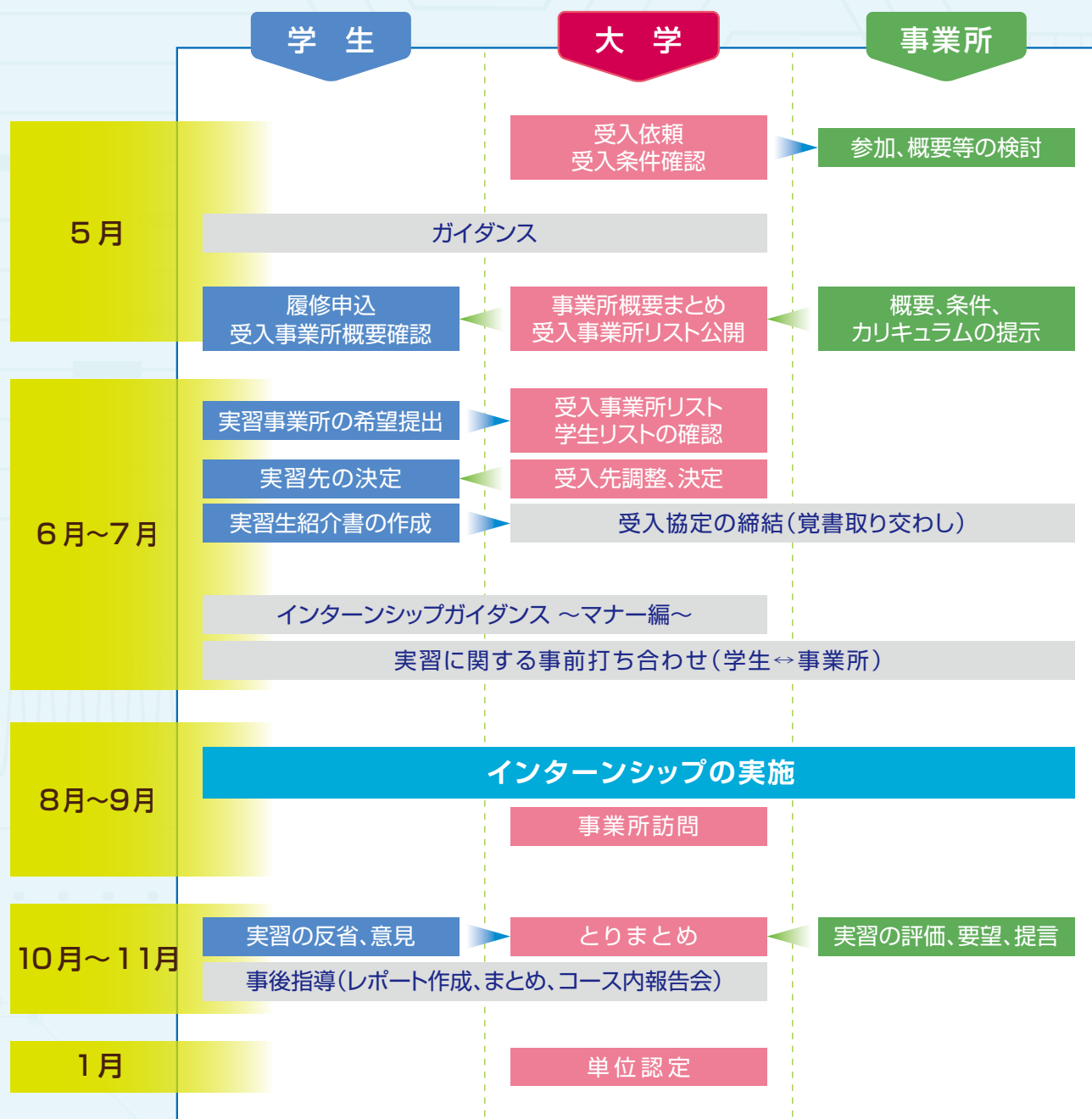
18 単位認定

単位の認定は、事前指導・事後指導・報告会への出席状況及び事業所からの報告、学生からの実習日報及び実習レポートにより総合判定する。

19 その他

この事業の実施に関してその他必要な事項がある場合は、インターンシップ実施委員会で協議する。

理工学部 インターンシップのながれ



学生のメリット

- 事業所の現場における実習を通じて、自主性、独創性、実社会での適応力を養うことができる。
- 実際の現場に触れることで、学問・研究について新たな学習意欲が喚起される。
- 事業所に対する理解が深まる。
- 自分にあった職業を選ぶ能力が身に付く。
- 将来に対して同様の目的意識を持っている仲間と出会うことができる。

大学のメリット

- 実践的な人材を実社会に送ることができる。
- 座学だけでなく実践的な教育カリキュラムを持つことができる。
- 教育改善・充実ができる。産業界のニーズを知り、教育プログラムの共同開発など教育面で連携できる。
- 事業所に対する理解の促進、連携が深まる。
- 学生の進路指導において、ミスマッチを防ぐことができる。

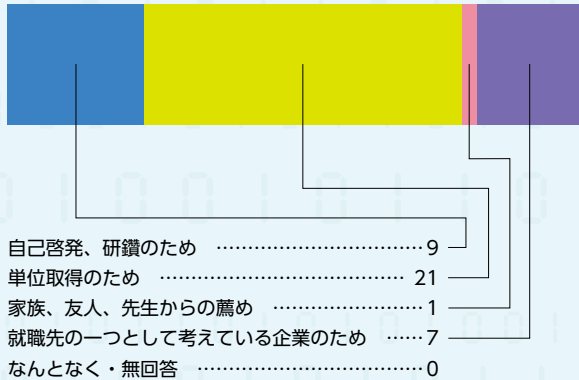
受け入れ事業所のメリット

- 社員等が学生を指導することによって意識が向上し、社員の研修になる。
- 学生との意見交換を通じ、新鮮な視点、新たなネットワークを得ることができる。
- 自社に適した学生と、つながりを持つことができる。
- 新卒採用の選考において参考になる(ミスマッチングを防げる)。
- 大学(教員等)との連携が深まる。研究ニーズを大学へ反映させることができる(卒論、修論テーマ、共同研究への発展など)。
- 大学教育に産業界等のニーズを反映させることができる。教育プログラムの共同開発など教育面で連携できる。
- 事業所についての理解が促進され、学生を通してPR効果が期待できる。
- 実践的な人材育成という社会貢献ができる。

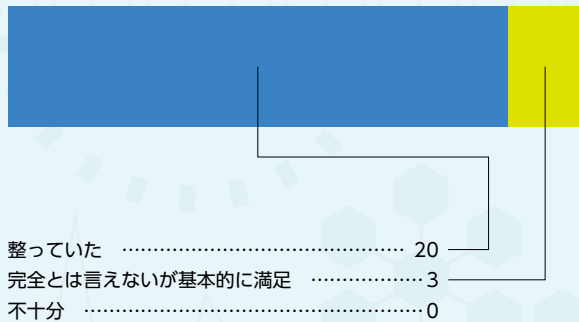


インターンシップ実習に参加した学生にアンケートを実施しました

●インターンシップ受講の動機（複数回答可）



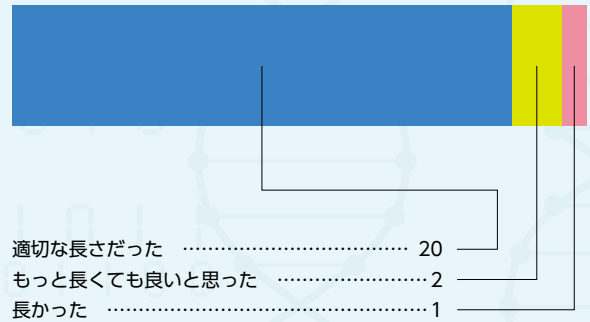
●研修先の受入れ体制は整っていたか



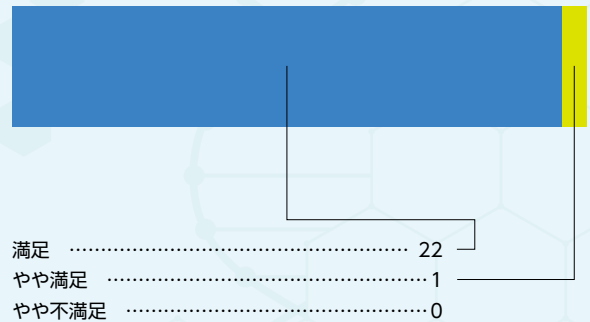
●受け入れ先の対応に対する満足度



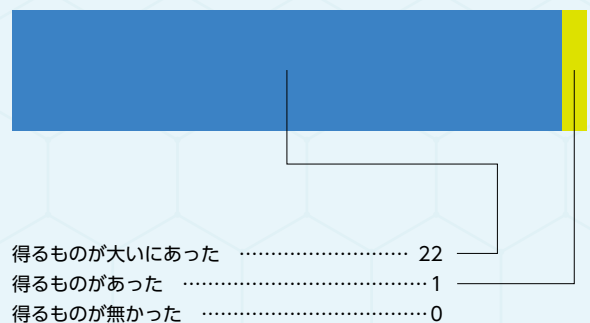
●研修期間について



●実習内容に対する満足度



●今回参加して得るものがあったか



2022年度 インターンシップ実施委員会名簿

	コース	氏名
委員長	マテリアルコース	大 柳 洸 一
副委員長	数理・物理コース	川 崎 秀 二
委 員	化学コース	塚 本 匡
	生命コース	荒 木 功 人
	電気電子通信コース	西 館 数 芽
	知能・メディア情報コース	談 宜 育
	機械科学コース	清 水 友 治
	社会基盤・環境コース	山 本 英 和
学務課 理工学部担当（学生センター A 棟 4 番窓口）		

新型コロナウイルス感染症流行するなか、本学部では昨年度に引き続き対象学生を限定しインターンシップ事業を実施することとなりました。

例年行っている事前指導に加え、感染拡大防止等に関わる指導も行いながら、16名の学生が無事に夏季インターンシップを終えることができました。

このような状況下で学生をお受け入れ頂いた事業所、ならびに実習の実現には至りませんでした。受入の了承を頂いた事業所の皆様方には深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

アンケートなどを通して頂戴したご意見は、貴重な資料として来年度の実施に反映させる所存でございます。今後もインターンシップについてのお問い合わせやご意見などをお待ちしておりますので、ご遠慮なくお申し出ください。

なお、下記ページにインターンシップ情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

● 掲載URL
<http://www.se.iwate-u.ac.jp/is/>

Thank you...



〒020-8550
 盛岡市上田三丁目18-34
 岩手大学学務部学務課理工学部担当

TEL 019-621-6307
 FAX 019-621-6065
 E-mail grikei@iwate-u.ac.jp



INTERNSHIP REPORT 2022

FACULTY OF SCIENCE AND ENGINEERING,
IWATE UNIVERSITY